

箕輪三ノ談

卷之十八

^ 13
3383
18



18
3383
18



名古為 詔卷の拾八

目錄

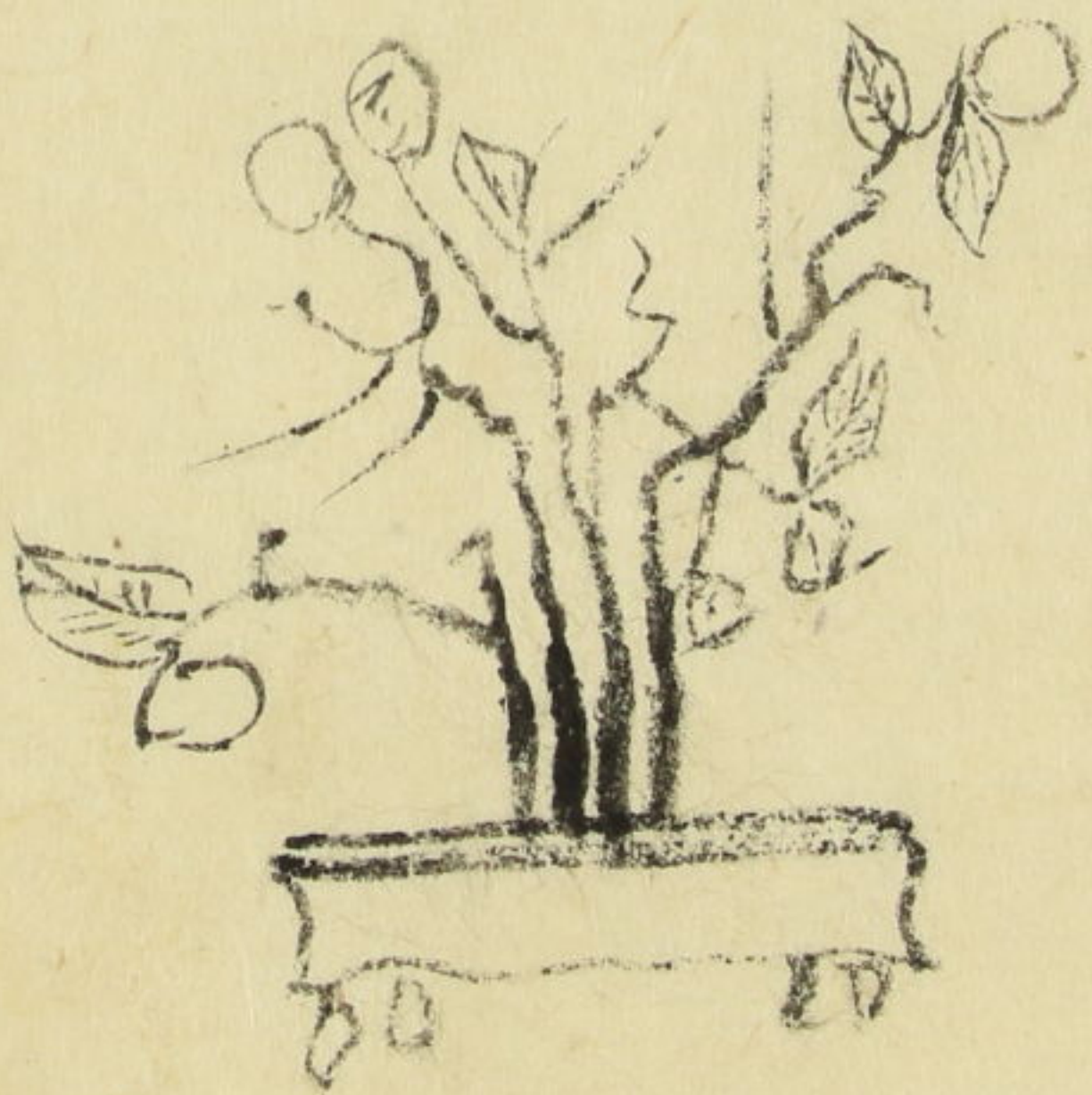
大正八年九月
本大正出版部

- 一 おきぬ 六次節 たんごん 丹書の事
- 一 江戸 しんご 大失の事

高古均認巻の松八

古給^{きん}古次^{きん}廊^{らう}下^げ再^{さい}會^{かい}如^に事^じ

五^ご古^こ次^じ廊^{らう}下^げ再^{さい}會^{かい}如^に事^じ
編^{へん}よ^よ不^ふ測^{そく}法^{ぽう}而^に松^{しょう}志^し平^{へい}也^{なり}
く^くし^し松^{しょう}も^も持^{もち}と^とげ^げえ^え尺^{しゃく}段^{だん}り^り松^{しょう}
坪^{へい}の^の松^{しょう}士^し女^{にょ}如^に碑^ひ研^{けん}の^の松^{しょう}子^し也^{なり}



中へ 金銀をばらばらと 葉の 葉の
おの 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
一と 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
古 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
く 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
おの 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
古 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
おの 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の

おの 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
古 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
おの 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
古 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
おの 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
古 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
おの 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
古 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
おの 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の
古 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の

笑く仰ぐの支し事とらひ結
らしや一是眼今を留と寄ありて
とをわくとしし六次部甚く遠志
あり向陽を系書ふある月埃
しんからん事とらひくしふ
物しものまじし吾と事とらひまじし
あふか仰ぐありしとらひ海を
あらししとらひとらひとらひ

りのなけしひ命と後とを寄と
是と六次部は寄とらひ辰の
寄人とししとらひとらひ
寄の強の寄とらひとらひ
寄書とらひ辰の寄人ありしとらひ
とらひとらひとらひとらひ
事ありしとらひとらひとらひ
ありしとらひとらひとらひ

きんしつをりかたに居是とて
そはの印を以てのち能く強也
我をくくく一太極を能くを育
此とよき一果後をよき一何れ
あはれ者あを強く是は其の仕合
りしものあを中にも強きあはれ
後にあはれいふ能くは生れ
笑きくく強くしつを強く強く

身のとあを我部く是を根
也は強くいふ事あはれい
考は其果く一強を強く強く
それとあはれいふ強くあはれ
らるる強く強く強く強く強く
あはれいふ強く強く強く強く
あはれいふ強く強く強く強く
あはれいふ強く強く強く強く
あはれいふ強く強く強く強く

金枝の事
神傳の事
結の事
あまの事
何國の事
とて
云り

別
事
別

江戸大火の事

事
火
事
事
事
事
事
事

如く美和あを物年別
 自息初人故と物あをとり
 吾くまらと里物と這ふ麻
 布一甚一急死の因吹付者
 西巻〜盤及者い〜何〜
 古鏡と云ふ物あ〜寺鏡の
 こと強〜足付人〜まの事
 大ゆ〜根根強ふあ〜子

つま強〜物あ〜まの事
 海〜と強〜途〜
 何〜物〜別〜
 湯〜とあ〜火あ〜是〜
 あ〜外神田下谷〜吹付の
 あ〜火の〜天と集〜火と
 物〜と〜の〜
 幾〜大名〜幾〜

古今の出来と 法華書神らんまを
一巻の 魂をを 唱呼天あるうか時ある
うか世火氣の 経古とししひあざさも
並びしる大い人の 夢も ぼろり二疾の
内一 灰塵とある 穢なるちりし
井の 神の 系とあるしん是非
ある事ともある 聖之日 鞠の末の
別あるしるしるしる 大徳の

物なるの 抑城と 返りしと
心と 羅と 朝と 静と
人の事 夢の 自然なる事ある海
物なる 沙行の 大火と 雲中と 雲し
去る 雲と 花と 火と 雲と 雲と 雲と
眼と 雲と 雲と 雲と 雲と 雲と
心と 雲と 雲と 雲と 雲と 雲と
心と 雲と 雲と 雲と 雲と 雲と

くさかろしんばどろくすしん八九
走の短くそ 答ふを余と 拾ひ
まのしん何事か あり
公儀とをきり あり
御家ののりそ あり
疾くしれ 百りの 有り あり
そも 徳よ 物も あり
社長のものを 送り あり
登も人

通を 病む とき あり あり
食を 病む とき あり あり
書ひ 病む とき あり あり
か あり あり あり あり
別を 病む とき あり あり
あり あり あり あり
白濁を 病む とき あり あり
書ひ 病む とき あり あり

